

令和6年度気候変動適応策ワークショップ 結果報告書

1 目的

- 自分の住むまちが「“生き延びられる”持続可能なまち」になることを目指して、気候変動に適応するための取るべき策や行動について考える。
- 特に、最近身近である「自然災害」、及び夏の気温上昇による「健康問題」を取り上げ、気候変動適応策を「自分事」と捉える機会とする。

2 開催概要

2-1

日 時：令和6年11月8日（金）13：50～14：40、14：50～15：40
場 所：黒磯南高校 大講義室
参加者：黒磯南高校生徒160名

2-2

日 時：令和6年11月9日（土）10：00～10：40、11：20～12：00
場 所：宇都宮共和大学 那須キャンパス 中講義室
参加者：住民14名

2-3

日 時：令和6年11月29日（金）12：40～14：30
場 所：黒磯高校 地歴教室
参加者：黒磯高校生徒58名



図2-2 ワークショップのチラシ・ポスター

3 プログラム

開催回ごとに所要時間及びプログラムが異なるため、参考として2－3黒磯高校での開催プログラムを以下に示す。

時間	内容
12：40～12：45	実施前アンケート（気候変動適応の理解度調査）の回答
12：45～12：50	開会のあいさつ
12：50～13：05	那須塩原市の現状とこれまでの取組の紹介
13：05～13：20	気候適応に向けたトランジションに関する講義
13：20～13：35	ワークショップ① 自分や周りの人が経験した「自然災害」または「健康被害」について話そう
13：35～13：40	ワークショップ① 全体発表
13：40～13：45	休憩
13：45～14：00	国内外の気候変動適応事例に関する講義
14：00～14：15	ワークショップ② 経験した気候変動に対して、どんなことがあればよいと思うか話そう
14：15～14：20	ワークショップ② 全体発表
14：20～14：25	振り返り
14：25～14：30	実施後アンケート（気候変動適応の理解度調査）の回答

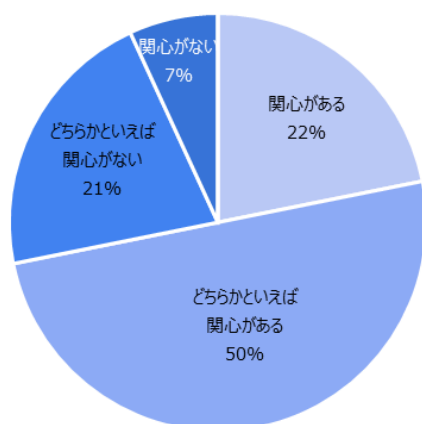


図3 ワークショップ及び全体発表の様子

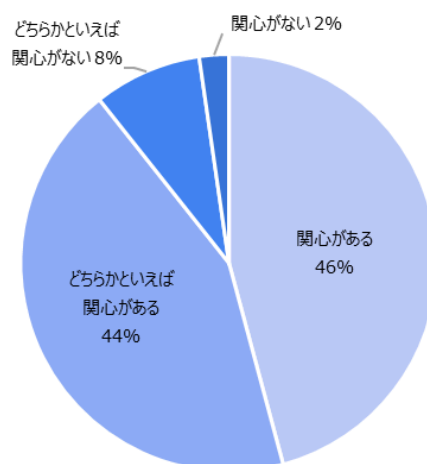
4 参加者アンケートの結果

4-1 地球温暖化への関心

[事前アンケート]



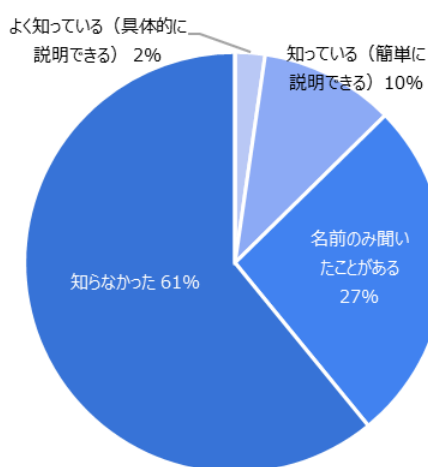
[事後アンケート]



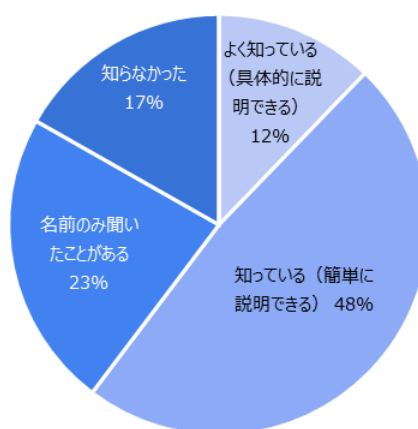
関心がある人の割合は、ワークショップの開催を通して22%から46%に増加した。「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた人はワークショップ開催後、全体の90%を占める結果となった。
ワークショップへの参加は地球温暖化への関心を高めるのに非常に効果があることが明らかになった。

4-2 「気候変動適応策」の認知度

[事前アンケート]

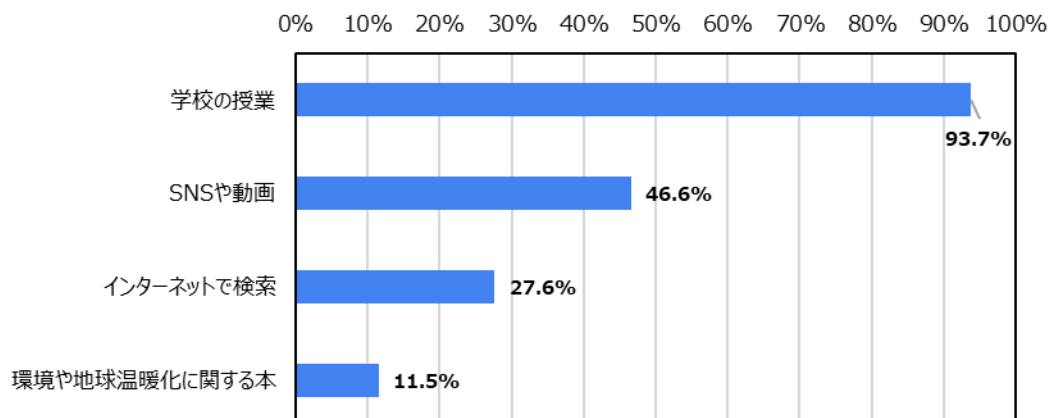


[事後アンケート]



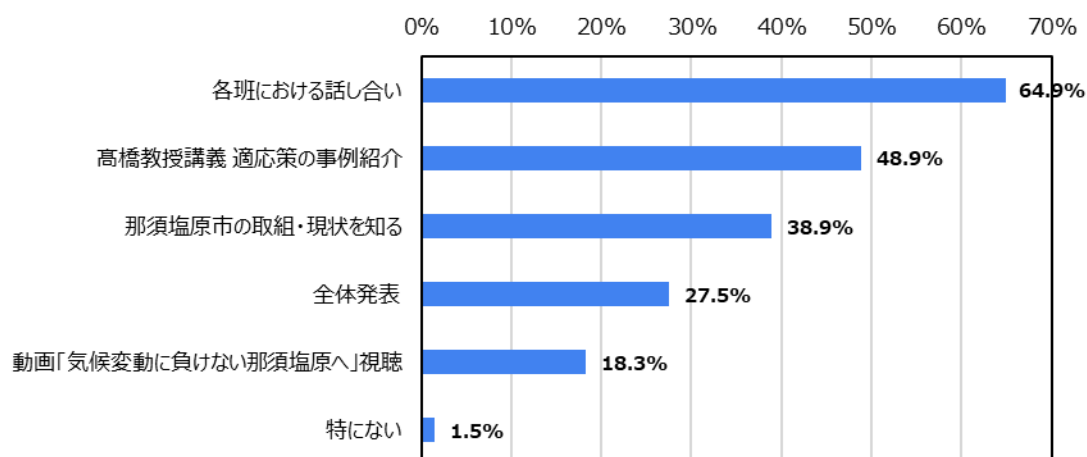
気候変動適応策について「よく知っている（具体的に説明できる）」「知っている（簡単に説明できる）」と回答した参加者の割合は、ワークショップ開催前後で比較すると12%から60%となり、約5倍に増加した。
ワークショップへの参加は、気候変動適応策の認知度を高めるのに非常に効果的である。

4-3 これまでに地球温暖化について学んだ方法



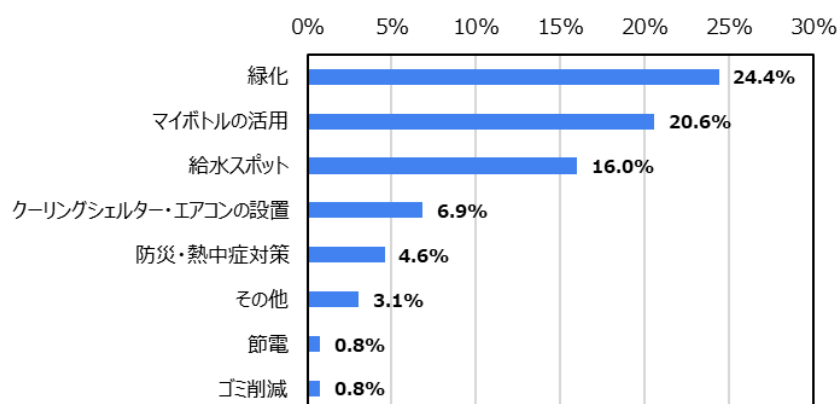
今まで地球温暖化について学んできた方法として、「学校の授業」が9割以上を占める結果となった。SNSが広く普及する現代にも関わらず「SNSや動画」と回答した参加者は5割以下にとどまった。学校の授業のような場を通じた参加型の普及啓発が必要であることがわかった。

4-4 ワークショップで最も印象に残った・興味深かったコンテンツ



「各班における話し合い」の人气が高く、6割以上の参加者が「最も印象に残った・興味深かった」と回答した。また、「高橋教授講義 適応策の事例紹介」が次いで人气が高く、半数近くが興味深いと感じていた。一方、動画資料は2～3割程度に収まった。対面形式での開催においては、長尺(10分弱)の動画を視聴するより口頭での説明の方が印象に残りやすい傾向が見られた。

4-5 気候変動適応策のうち、関心がある・取り組む意欲があるもの



自由記述式の設問だが、回答のほとんどは「適応策の事例紹介」で扱った内容であった。参加者に行動を促すために、具体的な取組や事例紹介が有効であることがわかった。設問④で「適応策の事例紹介」の人气が高かったことから、本コンテンツは後も継続して扱ってよいと判断される。

4-6 適応策を実施するために市や周囲の人に協力してもらいたいこと

給水スポットの設置、マイボトルの利用

- ・那須塩原市内の学校、駅、よく通る場所に給水所を設置して欲しい
- ・一人一人がマイボトルを使うようにする
- ・街中や駅、公園にミストや給水スポットの設置を進め、住民がアクセスしやすい環境を作る

緑化や公園の整備

- ・道路と歩道の間や歩道の空いているスペースに木を植えて日陰を作り、緑化イベントを開催する
- ・学校の校庭や公共施設の芝生化や植林を進める
- ・公園や公共スペース、家庭で緑のカーテンの導入や植林活動を推進し、補助金の提供等で支援する
- ・治安が良く、幅広い世代が憩える公園を整備する

涼しい環境・設備の強化

- ・体育館や武道館などの公共施設にエアコンを設置する
- ・クーリングシェルの整備と知名度向上を図る

環境保全と改善

- ・ポイ捨てを減らす取り組みを進める
- ・ゴミ拾いを促進する

公共サービスの改善

- ・バスの料金を安くして欲しい
- ・路面の工事やインフラ整備を進めて欲しい

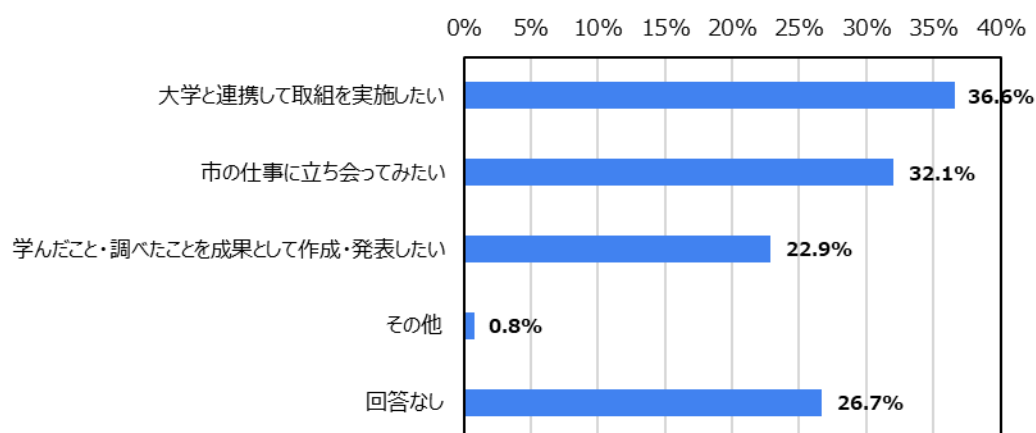
市のPR活動・取組推進

- ・市の取り組みを積極的にPRして、住民や学生への認知度を向上させる
- ・気候変動対策を学校の授業で扱い、住民の理解を深める
- ・市民や学校が協力して、地域全体での取り組みを推進する

その他の提案

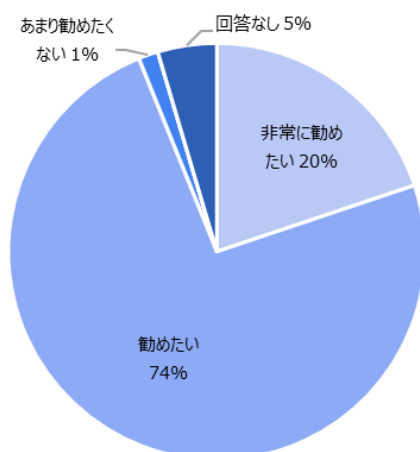
- ・寄付金や税金を活用した環境改善の取り組みを実施する
- ・大きな商業施設を建設し、気候変動対策のPRを行う
- ・太陽光パネルの設置を適正化し、植林活動を推進する
- ・学校で花壇を作り、自然環境と調和した学習環境を整える

4－7 本ワークショップ後に実施したいと思った取組



37%の参加者が「学んだこと・調べたことを成果として作成・発表したい」と回答した。継続した学習に意欲的な学生が多く、授業当日の1回にとどまらないプログラムを学校側と検討する価値がある。また、ワークショップでの話し合いに限らないアウトプット方法を提供することで、より理解が深まることも考えられる。

4－8 ワークショップを家族・知人に勧めたいか。



本ワークショップを家族・知人に「非常に勧めたい」「勧めたい」と回答した参加者は9割を上回った。紹介する事例の拡充や時間配分の見直し等の改善の余地はあるが、参加者にとって評価の高いワークショップが開催できたと捉えられる。

4-9 ワークショップに対する感想・意見

○評価

啓発的側面

- ・自分自身にできることは積極的におこなっていききたい
- ・1人では小さなことでも、たくさんの人で継続していけば大きなことになり、地球温暖化防止になることを学んだので、継続して取り組んでいきたい

市の取組周知

- ・那須塩原市の自然災害における適応策を考えることが出来てよかった
- ・みるでも取り組みがなされていたのは驚いた
- ・自分の住んでいるまちの課題と解決策を知れた

事例紹介

- ・気候変動に対する適応策について、様々なものがあることを知れた
- ・自分たちができる様々な対策を知れた
- ・市内だけでなく世界の気候変動への対策を知ることができた

今後の学習への接続

- ・今まで考えたことのない自然災害について色々な話を聞いたので、基本から考え直していきたい
- ・ぜひ生徒会と大学生の方々と一緒に活動してみたいと思った
- ・今後の総合探求に対して有力な情報を得ることができた

形式（大学連携、WS形式）

- ・話し合いの時間が非常に有意義だった
- ・大学生と交流する機会があまりないので、とても勉強になったし楽しかった
- ・大学生との意見交換で視野が広がり、考えを深めることができた
- ・専門的に学んでいる大学生とのグループ活動はとても勉強になった
- ・乗り気ではなかったが、段々とメンバーと話すのが楽しくなった

進行・運営

- ・今生じている問題やその解決策を知ることができてとてもいい時間だった
- ・環境問題について楽しく考えることが出来た
- ・流れがわかりやすく良かった

○要望

- ・もっと大人数で話したいと思った
- ・全体発表の時などに、もう少しゆっくり話してもらえると、聞き取りやすい
- ・給水機の設置や緑を増やす活動など進んでいるような場所に取り入れられたら良い
- ・市には今日出た意見をぜひ実現してほしい
- ・那須塩原駅の近くにある太陽光パネルを減らして木をもっと植えるべき
- ・マイボトルの活用など、もっと多くの人が少しでも意識を持ってくれば大きな貢献ができると思う
- ・こういう体験をもっとやりたい
- ・今まで知らなかった対策があったので、まちの人にもっと知らせることが大事